

徳島子どもと教育

徳島県教職員の会

〒771-0017 徳島市川内町鶴島115
黄金ビル 徳島労連事務所内
携帯 080-639-08732
TEL 088-665-6644
FAX 088-665-2117
eメール dp12287892@pf.lolipop.jp
2016年1月11日 No.203

戦後70年 平和ミュージアムとくしま

12月12日・13日、徳島大学総合科学部で「平和ミュージアムとくしま」が開催されました。これは、1995年の「戦後50年 平和ミュージアムとくしま」を引き継ぎ、改めて“世代を超えて戦争の真実を伝える”ことをテーマに開かれ、二日間で約1200名の参加がありました。

ステージ企画では、1日目、ソプラノ歌手の井上ゆかりさんのミニコンサートや、杉の子保育園の園児たちの「ぞう列車が行く」の合唱がありました。「戦争体験者による語り」では、「フィリピンでの輸送船沈没や銃撃され動けなくなり死を覚悟した戦場体験」、「父がイギリス国教会の神父で不敬罪で逮捕され『スパイの子』などと言われた体験」など衝撃的な内容でした。また、徳島大学総合科学部国際政治学研究室の学生による聞き取り調査発表「シベリア抑留の実態と教訓―樫原道雄さんはどうして生き抜いたか―」もありました。学生たちは、樫原道雄さんというたぐいまれな体験をした方に聞き取りをして、時代の流れを疑うことや、命の尊さ、逆境でも前向きに生きる柔軟さなどを、その教訓として報告していました。学生の誠実で丁寧な発表に、参加者から熱い拍手が送られていました。



2日目は、映画「ジョン・ラーベ―南京のシンドラー」の上映の後、徳島大学総合科学部卒業生でノンフィクション作家の城戸久枝さんの講演がありました。中国残留孤児である城戸さんの父の体験や、他の孤児たちの戦争体験、帰国後の生活などについて取材したことや、これらを次の世代に伝えていくことの大切さが話されました。

展示企画では、これまで徳島ではあまり行われなかった731部隊展や「従軍慰安婦」展があり、大

学生などの若い世代がこれらの展示を熱心に見ていた姿が印象的でした。

感想を一部紹介すると。

★ 731 部隊なんてものは初めて知ったが、こんな人を人とも思わないような行為が行われているのをみると、戦争時、人はくるってしまうのかなと思った。戦後 80 年、90 年、100 年とたっても忘れるべきことではないと感じた。(10 歳代男)

★ 慰安婦問題について否定的に考えていましたが、事実を知り、まだ受け止めきれま

せん。…今回参加でき大変学びとなりました。定期的に開催されてはいかがでしょうか。
…スタッフの皆様ありがとうございました。(20 歳代女)

展示では他に、「“ふるさとも戦場だった” ー徳島県に関わる戦争展ー」や沖縄戦展、無言館・岩田良二作品展が開かれました。たくさんの参加者が、足を止めてじっくりと展示を見ていました。

感想を紹介すると…

★当時の写真や教科書を見ることで、いかに戦争が悲惨なものであったか、また、日本軍が国民の思想を統制してきたか、ということをよく知ることができた。日本政府による戦時下の思想統制は、ものすごい強制力を持っていたのだろーと感じた。安倍政権により安保法案の可決など、現在の日本は不穏な動きがある。私は戦争を知らないが、過去の戦争から多くを学び、平和をつなげていかなければと思った。(10 歳代女)

多くの参加者が、平和への決意をあらたにする場となりました。

第43回はたらく女性の徳島県集会に参加して

去る 11 月 28 日にはたらく女性の徳島県集会が行われました。今年は『女性の平和 戦争法も男女差別も許しません』というテーマで、全労連女性部長の長尾ゆりさんのお話をもとに活動報告や交流がされました。

長尾さんは、まず「9 月 19 日を忘れない。私たちはけっしてあきらめない。」と開口一番言われました。わたしも、(そうだ、まだまだこれからできることはたくさんある。)と共感しました。

先の国会で、安倍内閣は、安保関連法(戦争法)を未審議の課題が山積みのまま強行採決しました。あらためて、その法律の中身について整理してみると、一つ一つの法律が、みんな曖昧であり、危険なものであることが確認できました。

また、長尾さんは続いて、自民党改憲草案についても言及しました。それは、読めば読むほど私たちのあらゆる人権がないがしろにされるものとなっています。安倍首相の「戦争する国・できる国」のために、憲法を変えようとしているたくらみを許さない運動が大事だと思いました。

つぎに、安保法制強行採決の批判をかわすために出された「一億総活躍社会」については、女性を安上がりで使い勝手よく活用するものだとして批判し、人間らしく生きるためには、賃金アップと人員増加などの切実な要求を実現させることが必要だと話されました。教職員の働き方も年々多忙になっているので、同感だと思いました。

2015 年は、戦後 70 年で、日本の進路が問われる年だったと思います。安保法制反対の行動を通じて、多くの国民が政治を身近なものとして感じ、憲法を守りたいという声が強まりました。教職員の会も、他団体の方と一緒に行動してきました。これからこの共同の輪を広げ、いま提起されている「戦争法廃止を求める 2000 万署名」に取り組んでいきたいと思います。(文責：阿波吉野川ブロック O)